

加古川町内 介護支援専門員研修会

1 4月21日、総合福祉会館の大ホールにおいて、**加古川町内介護支援専門員研修**を開催しました。「**加古川市第8期高齢者福祉計画・第9期介護保険計画～加古川市の指針を知りケアプランに活かそう～**」と題して、加古川市高齢者・地域福祉課と介護保険課から講師をお招きし、21名のケアマネジャーが参加されました。今後数年かけて行われる事業、現在進行形の課題など、私たち専門職が押さえておくべき情報が網羅された研修会でした。参加者より「**加古川**



市の方向性がわかり、今後の支援に結びつけていきたい」とのご感想をいただき、市の職員と顔の見える関係性を築くこともできたと感じました。今後も地域の専門職のみなさまのお役に立てるように努めてまいります。

2 6月24日、総合福祉会館の大ホールにおいて「**高齢者のメンタルヘルスサポート～コロナ禍の心理状態を理解しよう～**」と題して、加古川市市民健康課の保健師を講師にお招きし、**民生委員とケアマネジャーを対象に合同**



研修会を開催しました。長期となったコロナ禍では、心身の不調を誰もが感じており、特に高齢者の方に影響が表れやすいことを踏まえ、かかわりの深い民生委員やケアマネジャーと、**SOSのキャッチや声かけ、見守り方**などについて一緒に考えることができました。ご参加されたみなさまご自身の為にも、コロナうつ予防などお役に立ったのではと思います。コロナ禍においてもご参加いただいたみなさまに感謝いたします。

認知症サポーター養成講座

4月8日、加古川市の新入職員43名に向けて、**認知症サポーター養成講座**を開催しました。講師役のキャラバンメイトより、認知症について講義を行い、その後は「**来庁者への対応**」として**グループワーク**をしていただきました。若い方ならではの意見や、**認知症への理解をもった細かい配慮のある接し方**を考慮されていることがわかりました。今後2025年には後期高齢者数が急激に増える見込みとなっています。市役所の窓口で認知症の人が来られても、理解のある職員さんが対応して下さると心強いです。今後も若い世代の方にも認知症について学んでいただき、**高齢者が安心して暮らせる地域づくり**につなげていきたいと思っております。



オレンジサロン（認知症予防教室）

5月のオレンジサロンは「**認知症サポーター養成講座**」を開催いたしました。緊急事態宣言の延長により、中止の選択肢もありましたが、コロナ禍の1年間で積み上げてきたICTのノウハウと、楽しみにしていただいている方々の思いを



のせて、**地域住民向けに初めてオンライン**で行いました。参加者の方のICT環境のリサーチ、アプリの取り方の説明、接続テストなど事前準備をし、無事に本番を迎えることができました。質疑応答については、一人ずつ声をかけて、それぞれの貴重なご意見やご感想をいただきました。終了後は、参加者の方と滞りなく講座を共有できたことで**一体感と達成感を得られた**ような気がいたしました。微力ですが、今できることを行って、コロナに負けず、地域に貢献できたらと思っております。



フロバスクラブ ACP研修会

4月16日、加古川プラザホテルにて「**高齢者世代のもしもの備え～それぞれの人生会議を考える～**」と題して、加古川フロバスクラブの会員みなさまへの**ACPの講話と、もしバナカードを使っての人生会議の模擬体験**をしていただきました。もしバナゲームは「もし余命が6か月以内で



あると宣告された時、あなたなら

どのような最期を過ごしたいですか？」から始まります。ご自分の大切なものや価値観について、カードを選択していく中で模索します。「**痛みがない**」「**管につながれない**」のように普段ではなかなか考えることのない短文ですが、みなさま真剣に取り組んでいただきました。帰宅後に、奥様と話し合ってみたいとお言葉をいただき、**ACPの普及啓発の一助になれたのではないかと振り返っています。**

介護ほっとカフェ（介護者のつどい）

緊急事態宣言の影響で、4月は3カ月ぶりに総合福祉会館での開催となりましたが、OB介護者や現役介護者の方など15名にお越しいただきました。参加者同士で情報交換を行い、コロナ禍の病院での看取りや家族が亡くなった後の手続きなど、**貴重な経験談**をたくさん教えていただきました。**現役介護者の方のお気持ちも参加者同士で共有**され、リフレッシュと励ましの時間にもなりました。



5月は緊急事態宣言が発出された為、**初のオンラインでの開催**となり、6名の方に参加していただきました。内容は**加古川市成年後見支援センター**からの講話で、現役介護中で成年後見制度も考えられている方もおられ、ご自宅からのオンライン参加でも、お役に立つ情報をお届けすることができました。最初は不安だったオンライン開催も、最後にはみなさま慣れてこられ、お手のものでした(*^▽^*) 今後もICTを活用しながら、**コロナ禍でもできる家族支援**を考えていきます。

看護実習生さんが来られました♪

西神看護専門学校28期生、6名の学生さんが3クールに分かれ、**在宅看護論実習**に来て下さいました。今年度より在宅看護論のカリキュラムが変更となり、**地域包括支援センターの看護職の役割を学ぶ機会**をもつようになったとのこと。みなさま初々しく、私達もこんな時があったなあ感慨深い気持ちになりました。実習期間中は、地域包括支援センターにおける介護予防事業や初期集中支援チーム員など看護職としての役割や地域サロンや高齢者のつどい場の紹介、ACPなどの事例を紹介しました。また地域包括ケアシステムには欠かせない**多職種連携についての重要性**などもお伝えし、盛りだくさんの内容となりましたが、少しでも看護学生さんにとってお役に立てれば幸いです。そして夢に向かって**🌸大輪の花🌸**を咲かせていただけるよう期待しています。



編集後記

3度目の緊急事態宣言発出により活動が制限され、高齢者だけでなく、私たちにも大きな影響が及んでいます。今までは緊急事態宣言の合間を縫って研修会やオレンジサロンなどを開催していましたが、宣言が発出されるたびに地域の方から「中止になるのは残念」「集まる場がない」などのご意見をいただき、中止・延期ではなく急遽オンラインでの開催に舵を切った行事もありました。新しい生活様式が問われる中、コロナ禍での1年間の取り組みが形としてご提供できたことは、みなさまの貴重なご意見や応援があったからこそだと感じております。今後も少しでもみなさまのお力になれるように努めてまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。